

I. 薬局・医療機関関連

I. 有床診減少に歯止めを

日本医師会は削減傾向が続く有床診療所に関して、入院基本料の引上げや加算の充実により**状況を改善すべき**という報告書をまとめた。有床診療所は、24時間体制で患者対応が出来る点や、病院に比べて規模が小さくその分早い意思決定が出来る点など、病院と無床診療所の間に立ち補完する施設として重要であるとの考えを持っており、意義の再考を促したいようだ。

II. 国民の医療への関心、後退

内閣府が行った国民生活に関する世論調査において、政府が力を入れるべき政策(複数回答可)の中で「医療・年金等の社会保障の整備」を挙げた人が全体の62.8%となり、「物価対策」68.1%、「景気対策」64.4%に次ぐ3番目となった。コロナ禍で調査が行われなかった2020年を除く、**2022年まで9年連続で1番目であったが、2023年は国民の関心が他に移ってしまった**ようだ。

III. 赤字病院拡大へ

福祉医療機構が発表した2022年度の病院経営状況によると、一般病床の割合が50%を超える**一般病院の赤字割合は前年に比べ2.7ポイント拡大し31.1%**となった。療養病床が

50%を超える療養型病院でも6.3ポイント拡大し**32.2%**となっており、病院の経営状況が悪化していることが分かる。コロナ禍が収束し国民の関心が薄れる中、危機的状況が静かに広がっているようだ。

IV. 診療報酬のコロナ特例3月末で終

工

厚労省は都道府県に対し、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため継続していた医療機関に対する**特例措置を3月末で全面的に終了**すると通知した。病床確保料など医療機関の経営を下支えしてきたものだけに、今後の影響が懸念される。4月以降はこれまでの緊急措置ではなく、恒常的な感染症対策にシフトさせていくことになる。

V. 財政審、引き続き議論を行う考え

財務省の諮問機関、財政制度等審議会は今回の診療報酬改定に関し、建議が十分に反映されたわけではないがある程度反映されたと評価した。今回の改定については、事前調査の結果、診療所の経営状態が極めて良好であり、診療所の報酬単価を5.5%引き下げるべきとした建議を行っていた。同会は**今後も独自調査とそれに基づく建議を続けていく考え**を示している。

II. 行政・技術関連情報

I. 腸内細菌でストレスに差

京都大学や大阪大学の研究チームは、母親の育児ストレスと腸内細菌叢の関係を調べ、**腸内細菌叢の多様性が低い方が育児ストレスは高くなる傾向**を発見した。腸内細菌叢が多様だとリラックスするときに必要な神経活性が高く、ストレスからの回復力が高まる。母親の精神疾患のリスクを高める育児ストレスに関して、対策としてストレスの原因解明だけでなく、ストレスからの回復も重要視されており、今後は腸内細菌叢に注目が集まりそうだ。

II. 残業代未払 8 億円

愛知県の小牧市民病院は、未払であった**残業代など合計およそ 8 億円**を医師、薬剤師ら 277 人に支払うと発表した。2024 年 4 月から始まる医療者の働き方改革を前に勤務や手当などを見直していたところ誤った運用による未払が発覚し、清算することになった。過去 4 年分遡って支払うことになる。働き方改革を前に労働条件見直しをしている医療機関は少なくなだろうから、今後同様の事案が出てくる可能性は大きい。

III. 韓国医学部定員大幅増で混乱

韓国では、医学部の定員を従来約 3000 人から 5000 人に大幅増加させる政策をめぐり、研修医 6000 人が辞表を提出するなど同国の**医療が止ま**

りかねない混乱に陥っている。医師を含む専門職は人数が制限されていることが、立場の安定化に重要である。今回のような大量の増員は将来的な労働者としての価値の減少を引き起こす可能性があるため、このような行動が発生したものだと考えられる。

IV. AI が難病の診断補助

京都大学と日本 IBM は難病患者や家族、そのほか一般の人たち向けに **AI を活用した情報照会アプリケーション「Rare Disease Finder」**を発表した。複数の症状を入力することでかかっている可能性がある難病の候補が提示され、リンク先から相談できる病院も見つけられる。患者と専門医をつなぐ他、患者の早期発見にも役立てたい考えである。

V. 魚介類アレルギー患者、FPIES 患者も多数存在か

国立成育医療研究センターなどの研究グループは、**魚介類アレルギーがあると申告した人たちのうち 18.8% が食物蛋白誘発性胃腸炎 (FPIES) の可能性が高い**ことを明らかにした。また、症状を引き起こさない食品も多くあることも分かった。FPIES は食後 1 時間以上経過してから症状が出るので診断が難しいが、今回の発見が FPIES の診断ガイドライン作成などに役立つことが期待される。

Ⅲ. 企業関連情報

I. 「ゾコーバ」通常承認

厚労省は、塩野義製薬の経口新型コロナウイルス治療薬「ゾコーバ」に関して新医薬品として通常承認を行った。効能効果はSRAS-CoV-2による感染症である。今回の通常承認により、今まで行ってきた緊急承認下で求められてきた文書による患者からの同意取得が不要になる。

II. 田辺三菱、第一三共、糖尿病薬で提携終了

田辺三菱と第一三共は、糖尿病治療薬でDPP-4阻害剤「カナグル」、SGLT-2阻害剤「テネリア」の2剤に関して、9月2日をもって販売提携を終了し、9月3日からは田辺三菱が単独で販売を行うと発表した。「カナグル」と「テネリア」の合剤「カナリア」に関しては引き続き両社で販売・流通を担当する。

III. 大正製薬ダイレクト OTC 発売

大正製薬は医療用医薬品の有効成分でありながら、国内で医療用医薬品としての使用経験がないダイレクト OTC として、内臓脂肪減少薬「アライ」を発売した。同剤は事前に研修を受けた薬剤師しか販売できない製品である。保険医療の抑制が続く中、スイッチ OTC ではなく、医療用医薬品としての発売を前提としないダイレクト OTC は保険医療に影響しないた

め、持続的な社会保障という視点でも注目されていく分野になるだろう。

IV. ファイザー血友病治療薬承認申請

ファイザーは抗 TFPI モノクローナル抗体「マルスタシブ」に関して、血液凝固第Ⅷ因子または第Ⅸ因子に対するインヒビターのない血友病患者における出血傾向の抑制を対象疾患に製造販売承認申請を行った。同剤は出血傾向を抑制するため定期投与する薬剤調整が不要な固定容量の皮下投与製剤として開発されたものである。

V. 参天小児近視進行抑制点眼薬申請

参天製薬は、小児の近視進行抑制を目的とした点眼薬「STN1012700/DE-127」に関して承認申請を行った。投与対象は近視が進行している小児になるが、具体的な年齢などは今後の審査と同時に決まっていく予定だ。近視の進行抑制を適応症としている薬剤は国内にはなく、承認されれば日本で初めてとなる。近視の原因となる眼軸長の伸長を抑制することで、近視の進行抑制または遅延が出来ると考えられている。日本において近視は一般的になっているが、病的禁止まで進むと失明の恐れもあり、治療選択肢が出来ることは大きな前進である。

IV. 展望

I. プロの力の差

プロのカメラマンの力の差はどこにあるだろうか。超一流の目から見ると違う世界が広がるのだろうが、素人がプロのカメラマンの写真を見比べてもあまり差は感じない。少なくとも筆者はどれも上手で、最高の瞬間を切り取っているように見える。ところが先日、筆者にも**プロの腕の差が分かる瞬間**があった。

仕事でプロのカメラマンに写真を撮ってもらったのだが、相手の表情を引き出す話術、声掛けが非常にうまかった。今までいろいろなプロのカメラマンがいて、それぞれ相手の表情を引き出すために声掛けをするが、この技に結構な差がある。先日のカメラマンは、体の向きをどうすればよいか、どこに視線を合わせればよいか、顔のどの部分をどのように動かせばよいか、的確に指示してくれていい写真が仕上がった。

筆者がいつも行く床屋に言わせると、**床屋の技術はある程度年数を経ればそんなに差は出ない**。差が出るのは話術になる。と言っていた。年齢も性別もバラバラ。最近引っ越してきた人から、その街で生まれ育った人間まで様々な客を相手に、疲れさせず飽きさせない話題の選び方、話の仕方が重要なのだそうだ。

レストランの差にも似たような部分を感じる。同じような価格帯のレストランを比べたとき、メインディッシュの美味しさに違いはない。肉料理であれば、ど

れもいい火加減でみずみずしさを保っており、ソースも肉の個性にあった味付けになる。違いを感じるのは前菜やスープなどメインの前の料理だ。ゴボウでポタージュを作ったり、魚の刺身にイチジクとチーズを合わせたり、切る、焼く、蒸すなどの技ではなく、**食材の組み合わせのセンス**で違いを出してくる。

カメラマンの腕の差というとカメラの扱い方、床屋であればハサミさばき、レストランなら調理技術で差が出るように思うのだが、技術と言うのは一定程度を超えるとあまり伸びなくなるものだろう。プロというのは研鑽を積んで、その壁のようなところまでは皆たどり着く。超一流の目から見れば、壁までのわずかな距離の差も分かるのだろうが、素人にはそれは分からないし、素人向けの商売をしている以上、よく分からない僅かな差にこだわっても意味がない。それよりも顧客が分かりやすい部分、顧客が喜ぶ部分で違いを出した方が合理的だ。

プロフェッショナルと言うと、自分の技に誇りを持ち、それ一本で勝負をする不器用でストイックな姿を想像してしまう。しかし、実際のプロたちは一本の幹だけで勝負するのではなく、**枝葉を広げ、色々な引き出しをもって器用に立ち回っている**ようだ。(武田)

V. 市場動向レポート

I. 医療政策の今後

医療の質を保ちつつ医療費を抑制する改革を検討すべきだ。これは耳にタコが出来るほど聞いた言葉だが、先日国際通貨基金スタッフの公式訪問後に出された日本の経済政策に対する声明である。高所得者や資産の多い高齢者の自己負担引き上げ、後発医薬品やOTCの使用促進、リフィル処方増加、予防医療充実、医療サービスや医薬品の保険適用の対象を絞る、このような提案がそのあとに続いている。この辺りまではよく目にする内容で新鮮味はない。

では、海外から見たときに、なぜこのような対策が必要だと思うのか。日本が直面している優先課題として、**防衛、グリーントランスフォーメーション、デジタルトランスフォーメーション、子ども関連政策**などがあり、ここに予定されている歳出が相当額になることが予想される。防衛費含め、この数年で日本を取り巻く環境が大きく変わり、それに対する速やかな対応が求められている。

そして、その財源として経済成長による税収増と言うのはあまり見込めないため、消費税の増税や高所得者に対する金融資産への課税強化、住宅地への税制優遇の撤廃、社会保険料の増額など、国民の税負担を増やす方向に舵を取らないと賄えないと見られている。

歴史的な株高、デフレ脱却と人件費の上昇、金融政策もこれから大きく転換されていく。今までの医療費抑制策を取っていた頃とは状況が変わってきている。しかし、地球環境保護やデジタル技術の積極活用、そして祖国の防衛、優先的に支出すべき事柄が新たに登場してきた。その結果、**医療費抑制が引き続き必要**と言うのが、国際通貨基金と言う海外の経済専門家の答えのようだ。医療分野は今と変わらず引き続き厳しい環境に置かれたままなのかと、がっかりしてしまいそうになる。

しかし、よく考えると医療費抑制する改革が必要と言うところまでは、今までの日本の政策と同じであるが、具体的な内容、特にOTCの使用促進、リフィル処方の増加、医療サービスや医薬品の保険適用の対象を絞るなどの施策にはほとんど手を付けられていない。今までの政策は、医療費抑制のためにとりあえず薬価を下げるパターンが多い。

今後、医療サービスの保険適用の対象を絞りその分の支出を抑え、それを新薬に回すとか、リフィル処方やOTC使用促進により、医科医療費を抑制することで薬価引き下げを食い止めるとか、提案されている具体論を思い切って実施してみると、案外うまくいくかもしれない。
(武田)

薬経連ニュース2024年4月4日号

VI. 数字で見る医療提供体制（都道府県別後発品シェア 23年11月）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				令和5年度					
		4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～9月	9月	10月	11月	4月～11月	4月～9月	9月	10月	11月
	全 国	79.1	81.4	82.0	83.2	82.7	82.9	83.2	83.5	84.6	84.5	84.6	84.7	85.0
	北海道	80.6	82.7	83.4	84.2	83.8	84.1	84.3	84.5	85.4	85.3	85.4	85.5	85.8
	青 森	79.6	81.6	82.0	83.2	82.8	83.1	83.3	83.4	84.6	84.5	84.6	84.7	84.9
	岩 手	84.4	86.1	86.4	87.1	86.8	87.0	87.3	87.5	88.2	88.1	88.1	88.3	88.5
	宮 城	82.2	84.1	84.4	85.5	85.0	85.2	85.5	85.9	86.7	86.6	86.8	86.9	87.1
	秋 田	80.1	82.3	83.0	84.2	83.8	84.1	84.4	84.5	85.7	85.6	85.7	85.9	86.1
	山 形	82.7	85.0	85.4	86.7	86.1	86.3	86.7	87.0	88.2	88.0	88.2	88.3	88.7
	福 島	79.8	82.4	83.1	84.5	83.9	84.2	84.7	84.9	85.9	85.8	85.9	85.9	86.2
	茨 城	78.6	81.0	81.7	83.0	82.4	82.7	83.0	83.3	84.4	84.3	84.4	84.6	84.9
	栃 木	80.1	83.0	83.8	85.2	84.8	85.1	85.2	85.6	86.5	86.4	86.5	86.6	86.8
	群 馬	81.9	84.1	84.7	85.6	85.2	85.4	85.6	85.9	87.0	86.9	87.0	87.1	87.4
	埼 玉	80.0	82.2	82.7	84.0	83.5	83.7	84.1	84.4	85.4	85.3	85.5	85.6	85.8
	千 葉	79.6	81.8	82.3	83.7	83.2	83.4	83.7	84.1	85.0	84.9	85.1	85.2	85.5
	東 京	75.3	77.7	78.4	79.9	79.4	79.5	79.8	80.3	81.4	81.3	81.5	81.6	81.9
	神奈川	77.2	79.6	80.2	81.6	81.1	81.3	81.6	82.0	83.0	82.9	83.1	83.2	83.5
	新 潟	81.4	83.5	83.9	85.1	84.6	84.9	85.2	85.5	86.5	86.5	86.6	86.7	86.9
割	富 山	82.3	83.8	83.6	84.5	84.0	84.2	84.5	84.8	85.7	85.6	85.7	85.8	86.1
	石 川	80.5	82.2	82.4	83.5	83.0	83.3	83.6	83.7	84.8	84.8	84.9	85.0	85.2
	福 井	81.9	83.4	83.3	84.2	83.7	84.0	84.1	84.5	85.8	85.7	86.0	85.8	86.2
	山 梨	76.9	80.8	81.9	83.1	82.6	82.9	83.2	83.6	84.5	84.4	84.4	84.6	85.0
	長 野	81.8	83.8	84.3	85.4	84.9	85.2	85.5	85.7	86.7	86.6	86.7	87.0	87.1
	岐 阜	77.5	80.0	81.0	82.5	81.9	82.1	82.5	82.8	84.1	84.0	84.2	84.2	84.5
	静 岡	80.3	82.6	83.2	84.4	84.0	84.2	84.5	84.7	85.7	85.6	85.7	85.8	86.1
	愛 知	79.5	81.8	82.7	84.1	83.5	83.7	84.0	84.4	85.5	85.4	85.5	85.7	85.9
	三 重	80.1	81.9	82.3	83.6	83.0	83.2	83.6	83.9	84.9	84.8	85.0	85.1	85.3
	滋 賀	79.5	81.8	82.2	83.5	83.0	83.1	83.5	83.8	84.7	84.6	84.7	84.9	85.1
合	京 都	77.0	79.2	79.6	80.8	80.2	80.4	80.7	81.2	82.4	82.3	82.4	82.6	83.0
	大 阪	76.7	79.1	79.8	81.0	80.5	80.6	80.9	81.3	82.6	82.5	82.7	82.8	83.1
	兵 庫	78.2	80.5	81.0	82.2	81.7	81.8	82.1	82.5	83.6	83.5	83.7	83.8	84.1
	奈 良	77.1	78.8	79.2	80.5	80.0	80.2	80.6	80.8	81.8	81.7	81.9	81.9	82.2
	和歌山	77.1	79.4	80.1	81.4	80.7	81.1	81.6	81.8	83.1	83.0	83.1	83.4	83.7
	鳥 取	82.3	84.3	84.7	85.9	85.3	85.6	85.8	86.2	87.3	87.2	87.3	87.4	87.5
	島 根	83.2	84.9	85.3	86.4	85.9	86.2	86.5	86.8	87.9	87.8	87.9	88.1	88.1
	岡 山	80.6	82.5	83.3	84.3	83.9	84.2	84.3	84.5	85.5	85.4	85.6	85.6	85.8
	広 島	76.7	79.2	80.1	81.4	80.8	81.2	81.4	81.8	83.0	82.8	83.0	83.2	83.4
	山 口	80.8	83.4	84.0	85.1	84.6	84.8	85.0	85.4	86.5	86.4	86.5	86.7	87.1
合	徳 島	72.5	76.8	78.4	79.3	78.7	78.8	79.4	79.6	80.9	80.7	80.8	81.1	81.2
	香 川	76.6	79.3	80.0	80.8	80.2	80.5	80.9	81.2	82.6	82.6	82.7	82.7	83.0
	愛 媛	80.0	82.3	83.0	84.2	83.6	83.9	84.2	84.3	85.7	85.5	85.8	85.8	86.1
	高 知	75.4	78.4	79.3	80.3	79.9	80.1	80.2	80.6	81.7	81.6	81.8	81.8	82.1
	福 岡	80.0	82.1	82.8	83.9	83.4	83.6	83.8	84.2	85.2	85.1	85.2	85.3	85.6
	佐 賀	81.6	83.4	84.1	85.0	84.5	84.8	84.9	85.3	86.5	86.4	86.5	86.6	86.8
	長 崎	80.5	82.5	83.2	84.3	83.9	84.1	84.4	84.6	85.7	85.6	85.8	85.9	86.2
	熊 本	81.9	84.0	84.7	85.8	85.4	85.6	85.8	86.1	87.3	87.2	87.3	87.3	87.6
	大 分	79.6	81.9	82.7	83.8	83.3	83.6	83.8	84.1	85.2	85.0	85.2	85.4	85.7
	宮 崎	83.1	85.0	85.7	86.8	86.3	86.5	86.8	87.0	88.2	88.1	88.2	88.4	88.6
合	鹿 児 島	84.9	86.6	87.0	88.0	87.5	87.7	88.0	88.2	89.1	89.1	89.1	89.2	89.4
	沖 縄	87.8	89.0	89.3	89.9	89.6	89.7	89.9	90.1	90.8	90.8	91.0	90.9	91.0

関連部署でご閲覧ください。